

刑法編集日誌
竹安大憲ヨリ
未遂犯罪ノ章ニ至ル

刑一

6462

特ワ13
6462

明治八年五月決定ノ司法省職制章程第五條
ニ循ヒ刑法改正ノ草案ヲ起サンカ為メ新ニ
別局ヲ開キ同年九月十五日司法卿九ノ各負
ニ刑訟草案取調掛ヲ命シタリ

四等出仕 鶴田 皓

五等判事 平賀義賢

六等出仕 小原重哉

同 藤田高之

七等出仕 名村恭藏

同 福原芳山

同 草野允素

八等出仕 昌谷千里

昭和八年十月五日寄
龍田乙五氏贈

同 横山 尚

裁判所中属渋谷文毅

十二等出仕濱口惟長

同月二十日草案ヲ起ス目的ト方法ヲ定ムル
為メ卿大輔以下取調掛各員別局ニ集會ス

起案ノ大意

明治八年九月廿日

福原七等出仕欠席

一起案ノ目的トナス所ハ歐洲大陸諸國ノ刑法
ヲ以テ骨子トナシ本邦ノ時勢人情ニ参酌シ
テ編纂スルヲ尤モ歐洲諸國ノ刑法中佛國ノ
刑法翻訳先成リ各員日能ク慣レ且佛國教師
雇中ニ付質問ニ便ナルニヨリ先佛國ノ刑法
ヲ以テ基礎ト為シ其他各國ノ刑法ニ及フヘ
キ

一文字ノ用込ハ從來慣行ノ律文ニ依ル

一佛國教師ボワリナード氏ヲシテ現今日本ニ
施行スヘキ刑法見込書ヲ出サシメ今般纂集
ノ草案トテ比較シテ纂集ノ助トナス

一 佛國教師午前日ヲ定メ佛國ノ刑法ヲ講解シ其原由ヲ説明シテ纂集ノ助トナス

一 各員別局集會ノ時限ハ毎日午飯後ヨリ第二時ニ至ル

右議畢リ卿纂集長ヲ鶴田四等出仕ニ任セリ

右本日決議
同二十一日休
同二十二日 福原七等出仕欠席

一 本日各員受持ノ刑訟并ニ事務ヲ定ムル如シ

一 獨逸刑法 白耳義刑法 鶴田
加利州典 蘭律小言 平賀

英律 小原

佛律 藤田

獨逸刑法 名村

埃及刑法 草野

英律 福原

加利州典 昌谷

埃及刑法 横山

獨逸刑法 渋谷

白耳義刑法 濱口

一 纂集刑法ノ本文ハ鶴田四等出仕草野七等出仕受持日誌比較表等ハ昌谷横山渋谷濱口相通シテ受持ツ

右本日決議
同廿三日 平賀五等判事藤田六等出仕欠席

表目ノ事

罪ノ区別

一 歐洲刑法ニハ編章節款等ノ種々ノ表目アリ
 支那日本從來如此多クノ表目ヲ用ヒス且如
 此多ク表目ヲ用ヒストモ纂集ノ差支トナラ
 ス依テ今般ノ纂集ニハ編章ノ二ニ定ム
 一 歐洲刑法ニハ前加篇ナル者ヲ必ス罪名刑名
 ノ前ニ置ケリ支那日本又此文法ヲ用ヒス依
 テ前加篇ノ名ヲ止メ第一編第一章ニ纂入ス
 一 第一編ニハ先ツ初メニ刑名及ヒ処刑ノ通例
 ヲ置キ續テ餘事ニ及ホサントス
 一 罪名ハ歐洲各邦ノ成則ニ循ヒ 重罪 輕罪
 違警罪ノ三種ニ定ムルヲ各員異議ナシ
 右本日決議
 本日草稿第一條成ル

重罪刑名ノ種類

同廿四日 平賀五等判事藤田六等出仕欠席
 一 纂集長重罪ノ刑名 死刑 流刑 徒刑 禁
 獄ノ刑ニ定メ無期ノ徒刑流刑ハ島地ニ發遣
 シ且流禁獄ヲ以テ國事犯罪ノ者ニ科セント
 發言セリ本日衆議未タ決セス
 同廿五日
 佛國教師刑法講義初會ニ付本日休講義ハ二
 七五ノ日午前第十一時ヨリ十二時半迄ト
 定ム
 同廿六日休
 同廿七日 平賀五等判事藤田六等出仕欠席
 一 重罪ノ刑名去ル廿四日ノ衆議小原六等出仕
 ハ流刑ハ實際上行シ難シ依テ流ノ刑名ヲ止

メ暫ク他ノ刑ヲ以テ之ニ代ント謂ク福原七
等出仕ハ一体禁獄ハ長クスハキ者ニ非ス禁
獄ノ期ヲ短クシ眾狀最重キ者ハ流刑ニ処シ
島地ニ送ルヲ可トスト謂ク議論決ヤ入纂集
長カノ刑目ヲ出シ衆思ノ帰スル所ニ決セン
ト謂リ

徒刑無期

禁獄無期

右ニシテ十年以上ノ者ヲ遠島ニ送り取扱
ハ各區別ス 或ハ

徒刑無期遠島

流刑無期

禁獄有期

右二目ノ内衆議後ノ方ニ帰セリ依テ本日重
罪ノ刑名ヲ九ノ五種ニ定ム

一 死刑

無期徒刑

流刑

有期徒刑

禁獄

剝権ヲ附加刑トシテ議

輕

本日草案ニ条成ル

右本日ノ決議

同廿八日

一 纂集長輕罪ノ刑名ヲ定メントスル前民權利
奪ハ重罪ノミニ用ヒ罰金ハ輕罪ノミニ用フ
ルカ又ハ右兩刑ハ輕重罪相通シ用フルカ又
ハ止々本刑ノ附加トシテ用フルカ又ハ輕重
罪ノ刑名ト同シク本刑トシテ用フルカノ問
題ヲ出セリ然ルニ各負各區ニ異見ヲ生シ議
論結ンテ決ヤ入依テ先ツ輕罪ノ刑名ヲ定メ
續テ右ノ問題ニ及ハント議論暫ク相止メタ
リ

名村七等出仕輕罪ノ刑ハ

懲役

禁錮

罰

罪刑名種

罪金ヲ換用スル議

金ノ三種ニ定メ一般ノ犯罪ハ懲役ニ処シ國
事犯ニ限リ禁錮ニ処セント癸言セリ福原七
等出仕ハ盜賊ノ類ハ懲役ニ処スル勿論ナシ
氏其他ノ輕罪ニ至テハ懲役ニテハ餘リ苛酷
ナル者アラン依テ禁錮ハ國事犯ノミニ限ラ
ス一般ノ犯罪ニテモ輕キ者ハ禁錮ニ処スル
方可ナラン試ニ問フ若シ犯人罰金ヲ申渡サ
シ無カニシテ出入能ハサレハ如何(名村七等
出仕曰ク無力ノ者ハ其犯罪ノ種類ヲ區別シ
罰金ヲ實決ニ折算シ國事犯ニ係ル者ハ禁錮
ニ換ヘ其他一般ノ犯罪ハ懲役ニ服セシム福
原七等出仕ハ此說ニ同意セス罰金ヲ懲役ニ
換フレハ宜シカラス元來罰金ハ輕罪中ノ輕

キモノヲ罰スル刑ニシテ盜罪等ノ類ハ罰金
ヲ科スヘキモノニ非ス然ルニ罰金ヲ以テ懲
役ニ換用スルハ苛酷ノ甚シキモノナリ故ニ
禁錮ハ國事犯ニモ一般ノ罪ニモ相通用シ罰
金ヲ出入能ハサル者ハ禁錮ノミニ折算換用
スルヲ可トスト謂ヘリ於是議論兩方ニ別レ
リ

同廿九日

平賀五等判事藤田六等出仕欠席

一昨日ノ續キ福原七等出仕前說ヲ敷衍シテ懲
役ニハ罰金ヲ併科セ入禁錮ノミニ罰金ヲ併
科シ懲役ハタトハ旧來ノ破廉耻甚ノ如キ
者ノミヲ罰スル刑トナサント癸言セリ纂集
長ハ輕罪ハ禁錮罰金ノ二刑ニ定メテ如何ン

ト發言セリ

一 福原七等出仕ノ説ニ同意スル人 渋谷中届
纂集長ノ説ニ同意スル人 昌谷八等出仕
名村七等出仕ノ説ニ同意スル人 小原六等出
仕 草野七等出仕 横山八等出仕 濱口十二等出
仕

右ノ議ニヨリ同意者多数ノ説ニ決ス

本日草案三条成ル

右本日決議

同三十日 藤田六等出仕欠席

違言 刑

一 纂集長先ツ違警罪ノ刑名ヲ定メ其次ニ附加
ノ刑即チ民権剥奪等ノ刑ヲ置カン且ツ違警
罪ノ刑名各國刑法總テ前加篇若クハ刑名ノ

名位 置

監

部ニ置ケリ草案第一条止夕重罪輕罪違警罪
トノミ舉テ違警罪ノ刑名ヲ舉ス依テ白耳義
刑法ニ循々重罪ヨリ順ヲ追テ輕罪ノ次ニ其
刑名ヲ置テ如何ト發言セリ名村七等出仕ハ
其説ニ同意シ附加ノ刑ハ後ニ置テ外ニ差支
ナント答へリ福原七等出仕其説ヲ駁シテ謂
フ元來民権剥奪ハ罰金ノ刑ヨリ重シ然レハ
輕罪ノ後ニ置ク可カラス依テ佛國刑法ニ循
々民権剥奪ハ重罪ノミノ附加ノ刑トシ重罪
ノ次ニ置キ但族籍ノ權等ヲ禁スルハ輕罪刑
名中ニ置キ然ル後違警罪ノ事ニ及ハント謂
へリ此議困難ニシテ急ニ決シ難ケレハ暫ク
相止メ政府監察ノ身ニ移レリ

議ノ視

名村七等出仕政府ノ監察ハ佛國刑法ニ循ヒ概シテ犯人ヲ本貫在所並ニ罪ヲ犯シタル地ノ外ハ移シ營業ヲナサシメ尤モ都會ノ地ハ何レヨリモ移住セシメサルヲニ定メテ如何ト癸言セリ

鶴田四等出仕ハ本邦開化未タ歐洲ノ如クナラス一々他所ニ移ス時ハ第一營業ノ妨害トナリ生活ノ道ヲ失フニ至ラシ且其禁ヲ犯シ都會又ハ本籍ノ地等ニ歸リ来レハ又直チニ其罪ヲ論セサルヲ得ス終ニ種々ノ弊害ヲ生スルニ至ラシ依テ本人ノ住所ヲ移スナク特ニ警察官吏ヲシテ其勅止ヲ監察セシメテ如何ト癸言セリ本日此事モ未タ決セス

違警罪刑名

一 違警罪ノ刑名 拘留 罰金
前議先違警罪ノ刑名ヲ置キ續テ民權剝奪等ノ事ヲ置カン云々暫ク鶴田四等出仕ノ説ニ假定セリ

本日草案四余假定ス

十月一日休

同二日 欠員多キヲ以テ休

同三日 平賀五等判事欠席

監視ノ議

一 前日ノ續キ附加ノ刑ハ如何ント纂集長癸言セリ名村七等出仕ハ仍ホ前説ヲ主張セリ然ルニ都會ノ地ト犯罪ノ地ヲ除キ他ハ何地ニ置クモ宜シト少シク前説ヲ改メリ福原七等出仕謂フ予ハ昨日一旦鶴田四等出仕ノ説ニ

同意セシカ犯罪ノ種類ニヨリ他ニ移サ、ルヲ得サルヲ必ス之レ有ルヘシ就テハ時アリテハ他ニ移スト謂フヲ鶴氏ノ説ニ加ヘテ如何ト

鶴田四等出仕謂フ犯人自己住所ノ外必ス他所ニ送ラル、ナレハ其送ル地ヲ別段言渡シ且ツ其送移ノ手続等一々官ヨリ其手数を為サ、ル可カラス此等ノ身ハ實際上ニ於テ甚タ行ハシ難シ且他所ニ移住セシメハ多年ノ苦役ヲ受ケタル上ニ再々刑ニ附セラル、様ノ姿ニ立至リ頗ル過酷ニ涉ラント謂フ終ニ議論ニ方ニ別レタリ

又監察ノ刑ハ置クニ不及ノ説アリ本人ヲ他

所ニ移スニ非ス特ニ警察官吏ヲシテ動止ヲ監察セシムルノミナラハ警察規則中ニ記載スヘシ別段其刑名ヲ置クニ不及且ツ現今警察官吏ハ其区内ニ住スル人民ノ挙動ヲ視察スルヲ掌ル故ニ此刑ヲ置カスト虽氏實際上何人ニ拘ハラス総テ政府ノ監察ヲ受クルモノナリ

依テ此監察ノ附加ノ刑ヲ置ト置カサルトヲ議スルニ衆論此刑ヲ置クト虽氏後日實際上用ユル所ナケレハ其節ニ至リ削除スヘシ今之ヲ置カスレテ後日叙置シテハ体裁モ宜シカラス依テ先ツ此刑ヲ假リニ設ケ置クヘシト決ヤリ

剝權ノ議

一 續テ監察ノ方法ハ何レノ説ニ同意セントカ
言セリ各員意見一定セスト雖モ纂集長ノ議
ニ循ヒ暫ク住所ヲ移サスレテ監察スルニ假
定ス

一 纂集長前日ノ續キ民權剝奪ノ事ニ及ハレ此
附加ノ刑ヲ置カントスル前ニ先ツ民權族權
等ノ種類ヲ議セントカ言セリ
此議未タ決セス

一 明四日ヨリ教師講議并ニ質問之レアル日ハ
講義質問ノ時間ヲ除キ午前午後トモ各員其
本務ニ従事シ別局集會ハ其餘日ヲ以テ午前
ヨリ午後ニ及ハント定ム

同日 卒賀五等判事欠席

一 重罪附加ノ民權剝奪ノ種類ハ畧決定セシカ
福原七等出仕輕罪ニハ此附加ノ刑ヲ用ヒス
若シ用ヒントスレハ本刑トナス可シ罰金ト
虽モ本刑トナル上ハ民權剝奪ヲ附加トナス
ハ權衡宜シキヲ得ストカ言セリ鶴田四等出
仕ハ輕罪ト虽モ民權剝奪ヲ附加ノ刑トシテ
用ヒサルヲ得サルヲアリ如何トナレハ賊盜
等ノ罪ノ如キ其本刑輕罪ニ欠ス可キモノア
ルト虽モ自然民權ノ幾分カラ奪ハサレハ其
宜ヲ得ス依テ一体ノ民權剝奪ハ重罪ノ之ノ
附加トシ輕罪ニ於テモ別ニ幾部分カノ剝奪
ノ刑ヲ附加セサルヲ得スト謂ヘリ
一 右ノ二論ヲ決スル前ニ民權ノ剝奪ハ重罪附

没収

加ノ刑ニノミ用ヒ別ニ本刑トナシ用ヒサル
 カ又ハ別ニ本刑トナス時モアルヤト論及セ
 リ衆議院重罪附加ノ刑ノミニ用ヒ別ニ本刑
 トナサスト決ス依テ九月三十日ノ議愈鶴田
 四等出仕ノ説ニ確定セリ

一 纂集長既ニ民権ノ剥奪政府ノ監察ニ附スル
 附加ノ二刑ハ決定セリ應禁物并ニ犯罪ニ用
 ヒタル物品等ヲ没収スルハ附加ノ刑中ニ置
 クハキヤ又ハ別ニ一章ヲ設ケテ没収ノ事ヲ
 掲載シ刑名ノ部中ニハ入レサルヤ如何ト癸
 言セリ

一 右ノ癸言ニ付議論紛起セシカ終ニ名村七等
 出仕ノ説ニ循ヒ没収ノ事ハ別ニ一條ヲ起シ

テ附加ノ刑名中ニ列置セサレハ体裁宜シカ
 ラスト各員附加ノ刑中ニ置カント決ス

一 右附加三刑ノ刑名中政府ノ監察ニ附スルト
 謂フ語外ニ本邦慣習ノ右ノ刑名ニ的當スル
 字ハナキヤノ議起リ先假リニ居止ノ監察ト
 定メリ

一 此他本日民権剥奪ノ種類中學校ノ教師トナ
 ルノ權ハ如何ト種々ノ議起レリ他日確定ノ
 日ヲ待テ誌サントス

本日草案五條成ル

同五日 教師講義ノ日ニ當リ休

同六日 休

同七日 教師講義ノ日ニ當リ休

總規則位

同八日

平賀五等判事福原七等出仕欠席

一 名村七等出仕既ニ重罪ノ刑名ヨリ附加ノ刑ノ種類迄ハ相定タリ此次ニハ法律ハ既往ニ及ホスヘカラスト謂フ條并ニ外國人ト虽氏日本ニ於テ罪ヲ犯セハ日本ノ法律ヲ以テ処断スル條等各國刑法ノ前加篇ニ載スルモノヲ此次ニ置キ其後ニ章ヲ更メ死ハ何々ト置テ如何ハ外國刑法ト人ト居氏本國ノ法ニ於テ外國人ト居氏刑法ニハ格別出サト謂ト癸言セ

一 鶴田四等出仕全体總論ハ初メニ置ク可キ者ナリ然ルニ州案刑名ヨリ筆ヲ起シタル上ハ順ヲ追ヒ刑ノ程度ヲ置キ統テ諸罪通用法ヲ

置議

置キ總論ハ第一編ノ終リニ置クヲ可トスト謂ヘリ

一 名村七等出仕又謂フ總論固ヨリ初メニ置クヘキ者ナリ然ルニ州案初メニ置カサレハ全編ノ末尾ニ置テ可ナラン否レハ文章ノ体裁ヲ成サス予ハ第一編ノ終リニ置クフニハ同意致シ難シト然ルニ鶴田四等出仕ノ説ニ同意スル者多シ依テ第一編ノ終リニ置クフニ決ス

一 草案五條ノ次ニ章ヲ置ヤ否ノ議并ニ其章ニハ何ノ表目ヲ置クヤノ議起リ章ヲ置クフハ即時決シタリ然ルニ表目ニ於テハ各負異議ヲ生シ第二章重罪輕罪ノ刑ノ用例トナサン

議ノ刑死

ト謂フ者アリ名村氏ハ後チ此ノ説ナリ然ルニ同氏重
 罪輕罪及ヒ違警罪ノ刑トナサント謂フ者アリ
嶺野名村 死刑トナサント謂フ者アリ諸刑ノ程度トナ
 刑トナサント謂フ者アリト謂フ者アリ
 サント謂フ者アリト謂フ者アリ
 クヘキ條々ヲ撰ミ其現實ノ模様ニ依リ表目
 ヲ命セント此議止タリ
 一 前議ニヨリ二章ノ條々ヲ撰フニ死刑ハ如何
 ナスヘキヤト纂集長弁言セリ衆議斬首ノ一
 ツニ決定セリ
 一 名村七等出仕父母ヲ殺シタル罪人ハ通常ニ
 循ヒ斬首ノミニ止ムルヤ又ハ外ノ法方ヲ以
 テ死ニ処スルヤト各員ニ向テ弁言セリ各員

論說異同アリ決セ入鶴田四等出仕一休死ハ
 刑ノ極メニシテ死ヨリ加フ可キ刑ナケレハ
 假令君父ニ對シタル逆罪ト雖モ斬首ニ止メ
 但其次刑ノ式ニ至リ通常死刑ト區別ヲ立テ
 通常死刑ハ獄舎ニ於テ刑ヲ行フニ此罪ニ至
 テハ他ニ其場ヲ設ケ顯戮ニスルトカ又ハ死
 後ノ処分乃チ犯由牌ノ設立等ノ事ニ於テ通
 常ノ刑ト區別ヲ立ルトカニ為シテ如何ト弁
 論セリ各員死ハ重大ノ刑ナレハ各國刑法并
 ニ各種ノ議論再考ノ上後日ヲ待テ決セント
 謂ヘリ依テ此議モ暫ク相止メタリ
 本日一ツノ決議ナシ
 同日 平賀五等判事福原七等出仕欠席

一 昨日ノ議ノ如ク君父ニ對シタル逆罪ノ刑ハ後日ノ議ニ附スルヲ以テ本日ハ初メヨリ此議ニ及ハス依テ死刑ノ部中ニ置クヘキ餘條纂集ニ係レリ

一 死刑ノ條下ニ置クヘキ者各國刑法小異同アリト雖氏大抵九ノ六七種ヲ掲載セリ

第一死刑ハ刎首ス 第二死骸ハ下附ス 第三埋葬ニ式ヲ用ユルヲ禁ス 第四祭日ニ刑ヲ行ハス 第五行刑ノ場所ヲ特定ス 第六犯由牌ヲ立ツ 第七懷胎ノ婦女ハ分娩ヲ待テ刑ス

一 刑案撰ム所尤ノ如シ

第一死刑ハ斬首ステ刑ヲ行フ事ハ獄舎ニ於テ行ハルヲ論テ待タス

第二遺体ハ下附ス 第三式ヲ以テ埋葬スルヲ禁ス 第四懷胎ノ婦女ハ分娩ヲ待テ刑ヲ行フ右用ヒ類ハ我刑者ナリ於テ

一 祭日行刑ヲ止ムルヲ犯由牌ヲ立ル事ハ死刑ノミニ限ラサル者ナレハ死刑條下ニ入レス

次ヲ追テ後條ニ置カント決セリ

一 加利州典外刑宣告ノ後瘋癲ヲ発スル者ノ条アリ然ルニ此事ハ死刑ノミニ限ラス他ノ刑ニ通スル者ナレハ前議ノ如ク後條ニ纂入セント決ス

一 死刑ノ條下ニ入ル、者右ノ如シ續テ無期ノ刑ノ事ニ及ヘリ各員一ツノ異論ナシ

一 無期ノ徒刑ハ期限ナク島地ニ發遣シ若役

無期刑ノ

二服セシム 一流刑モ亦期限ナク島地ニ
發遣シ居住セシム然ルニ島地定ラサル間
ハ内地ニ於テ分別区処ス

一 名村七等出仕六十以上ノ老者并ニ婦人犯罪
ノ者流刑ハ苦役ナキ故格別議スルニ及ハス
ト虽モ無期ノ徒刑ニ該ル時ハ特別ノ法律ヲ
以テ島地ニ發遣セズ内地ノ徒場ニ置ト定メ
此一條ヲ無期徒刑ノ次ニ置テ如何ト發言セ
リ 各員異議ナシ然ルニ止メ此無期ノ刑ニ
当ル罪ヲ犯シタル時ノミナラズ他ノ罪ヲ犯
シタル老少婦人等ヲ減宥スル事ニ至テハ別
ニ一條ヲ起シ其節此事ハ議セント答ヘタリ
一 鶴田四等出仕謂フ前議ノ如ク六十以上ノ者

無期ノ徒刑ハ内地ニ置キ流刑ハ仍亦島地ニ
送ルトセハ譬ハハ流刑ノ者竊カニ内地ニ歸
ル時ハ無期ノ徒刑ニ処スヘキナリ然ルニ六
十以上ノ者右ノ罪ヲ犯セハ再々島地ニ發遣
セス。再犯加等ニシテ實ハ加等ニ至ラサル詎
ナリ依テ流刑モ六十以上ハ島地ニ發遣セス
禁獄ニスル方可然ト各員異議ナシ依テ六十
以上并ニ婦人ハ流刑無期徒刑ノ二刑共島地
ニ送ラサルニ決ス
一 右六十以上婦人ノ島地ニ送ラサル條ハ無期
ノ徒刑ノ次ニ置カント一時答ヘタリ然ルニ
全体此島地ニ送ラサル事モ到底減宥ノ意ヨ
リ出タル事ナレハ減宥ノ條ヲ起ス時其部ニ

有期刑ノ年限

入レント決ス

一 有期ノ徒刑ノ年限ハ何年ヨリ起シ何年ニ止メテ宜シキヤト纂集長堯言セリ

米國英國ヲ除クノ外歐洲大陸ノ刑法大抵尤ノ如シ

重罪

白耳國

懲役二種アリ一ツハ十五年ヨリ二十年ヨリ又監役ハ十五年ヨ

佛蘭西國

五年ヨリ二十年外ニ徒場内駆役

埃及國

三年ヨリ十五年

獨逸國

一年ヨリ十五年

輕罪

白耳義國

八日ヨリ五年

佛蘭西國

六日ヨリ五年

埃及國

八日ヨリ三年

獨逸國

一日ヨリ五年

違警罪

白耳義國

一日ヨリ七日

佛蘭西國

一日ヨリ五日

埃及國

一日ヨリ七日

獨逸國

一日ヨリ六週

一 右ノ如ク各國刑法ノ比較ヲ出スニ依リ左ノ

問ヲ為ス者アリ

問 各國刑法及刑ノ期限違警罪七日ニ止マ

レハ輕罪ハ八日ニ起リ輕罪五年ニ止マレハ

重罪ハ五年ヨリ科ヲ起ス等起科ノ入組タル

者見へス時ニ獨逸刑法ノ如クハ如期起科ヲ入
組シタルハ如何ノ義ナルヤ 纂集長答フ予
思フニ是他ナシ苦役ノ法方異ナル所以ナラ
ン然レ氏此入組タル起科ノ論ハ宜シカラス
草按此ニ依ルヘカラスト謂ヘリ 各員異議
ナシ

一 鶴田四等出仕ハ重罪ノ科ハ三年ヨリ起サン
ト謂ヘリ然ルニ輕罪ハ四年ニ止メ重罪ハ五
年ヨリ科ヲ起サント謂フ者アリ各員皆道理
ノアル所ヲ主張シ議論決セス然ルニ後チ終
ニ五年ニ同意スル者多シ依テ暫ク五年ヨリ
科ヲ起スト定メ其長期ニ至テハ十五年ニ止
ムト謂フニ決セリ

重罪再犯

一 刑期ヲ置ク間ノ接続詞ハ如何ナル文字ヲ用
フルヤ(乃至)ノ字ヲ用ヒント謂フ者アリ(ヨリ)
ノ字ヲ用ヒント謂フ者アリ衆議ヨリノ字ニ
決セリ
本日草案六條ヨリ十一條マテ成ル
右本日決議

同十日
一本日ヨリ十七日ニ至ル間本務繁務ヲテルニヨ
リ休

同十八日 平賀五等判事欠席
一 有期徒刑ノ年限迄ハ既ニ決シタリ然ルニ重
罪中有期徒刑ノ上ハ直チニ無期ノ刑トナル
ナリサスレハ再犯ノ時ハ直チニ無期ノ刑ニ

ハル其間ノ權衡甚宜シカラス依テ再犯直チニ
 二魚期ノ刑ニ入ラサル様為シタキ者ナリ如
 何スレハヨカラント纂纂長登言セリ○福原
 七等出仕謂フ有期徒刑ハ五年ヨリ十五年ニ
 至ル法ナレハ再犯又有期ノ徒刑ニ諛ル者ハ
 其刑期ヲ増シテ罰入増シテ二十年ニ止ルヲ
 宜シトス○名村七等出仕ハ増シテ倍三十年
 迄ニ至ルヲ宜シカラント謂フ○福原七等出
 仕又謂フ名村氏ノ説ノ如ク増シテ三十年迄
 ニ至ルハ宜シケレ共三十年ノ久シキ時間徒
 刑ニ在レハ名ハ有期ニシテ實ハ無期ナリサ
 スレハ二十年迄ヲ可トセン○鶴田四等出仕
 謂フ佛國刑法中重罪施体ノ刑ハ其刑名ヲ揭

クルノミニテ何年ヨリ考カラス何年ヨリ少
 ナカラスト記載セスト雖氏今艸案ヲ起スニ
 ハ重罪ニ於テモ各條一々刑ノ年限ヲ擧ケ再
 犯ノ時ハ必ス其初犯ノ年限ヨリ増加シ而シ
 加ヘテ二十年ニ止ムトシテ如何
 右三説本旨ニ於テハ皆同シ但二十年ト三十
 年トノ違ハアルノミ
 重罪ノ刑ニ於テモ本條夫々年限ヲ擧ル事ハ
 各員鶴田四等出仕ノ説ニ同意シ再犯ノ時加
 ハテ止ムル刑ノ期ハ二十年ニ同意スル者尋
 シ依テ二十年ニ止ムルヲニ再犯本章ヲ艸ス
 ルニ臨ミ決定セント此論ヲ爰ニ誌セリ
 一統テ禁獄ノ刑ニ及ヘリ年限ノ事ハ有期徒刑

刑
法
書

輕罪及違警罪ノ刑期

ニ同シ各員異議スル者ナシ止夕服役セシムルヤセシメサルヤノ事ニ付少議論アリタリト雖氏終ニ服役セサル方ニ決ス然レ氏犯人服役セント欲スル者ハ獄則ニ於テ服役セシメテ宜シケレハ卹案此服役ノ事ハ載セスト

一次ニ輕罪ノ刑ノ年限ニ議シ及ヘリ重罪ノ短期ト輕罪ノ長期トノ間幾年月カ空位ヲ置ケハ輕重罪判然區別相立往々ハ裁判所ノ構成洺罪法ノ処分ニ於テモ自然順序宜シカルヘシト謂フ議起シリ然ルニ犯罪萬状凡百ノ惡事ニ於テ如此空位アル者ニアラス依テ之ヲ罰スルノ年限ニ至テモ間斷アルヘカラス故

ニ接続シテ科ヲ起シ輕罪ハ五年ニ止メ重罪ハ五年ヨリ起スヲ至当トスルトノ説アリ前説ヲ為ス人ハ福原七等出仕横山八等出仕諸人後説ヲナス人ハ鶴田四等出仕名村七等出仕諸人ナリ然ルニ後説ニ同意スル人多シ依テ輕罪ノ長期ハ五年ト定メリ

一 輕罪ノ起科ハ如何ト纂集長發言セリ十日ト謂々又ハ八日ト謂フ人アリ説ノ多数ニ從テ八日ヲ以テ輕罪ノ起科ト定ム

一 右ノ議ニ依リ禁錮并ニ違警罪ノ事ニ及ヒシカ違警罪ハ七日ヲ長期トシ再犯加等セスト謂フ議各員異見ナシ禁錮ノ起科ハ稍異論アリシカ多説ニ循ヒ一日ヨリ科ヲ起サント定

額
類
額
類
額
類

金ヲ出ス能ハサル歳

ニシテ其罰金ヲ出ス能ハサレハ如何スルト
謂フ説起リシカ原來罰金ハ償ノ性質ヲ帯ヒ
タル者ナリ例ハ証券印紙蠶種規則税関規
則等ノ如キ若シ此規則ヲ犯ス者アレハ政府
ノ損害トナル如斯損害ノ償ヲ帯ル者ヨリ起
リタル者ナレハ他ノ償金ト同シク子孫マテ
ニ及ホシ必ス全額ヲ追徴ス可シ他ノ刑ニ換
エルト謂フ説アレ共他ノ刑ニ換フ可キ性質
ノ者ニ非スト謂フ説ヲ為ス入アリ○又刑ハ
子孫ニ及ホサルハ萬圓ノ通法ナリ且道理
ニ於テモ子孫ニ及ホスヘキ者ニ非ス故ニ罰
金ニ於テモ寧口他ノ刑ニ換フル氏子孫ニ及
ホサルヲ可トスト謂フ説ヲ為ス者アリ○

罰

一 罰金輕罪ハ一圓以上違警罪ハ一圓以下ト定
メ如何ト纂集長發言セリ少シク議論アリ違
警罪ハ一圓未満トナサント謂フ説アリシカ
終ニ一圓以上一圓以下ト定メリ
本日岬案十一條ヨリ十六條マテ成ル
同十九日 平賀五等判事欠席
一 違警罪ノ罰金一圓以下ト昨日定メタリ然ル
ニ禁錮ハ八日ニ起シ拘留ハ七日ヲ長期トス
レハ罰金ニ於テモ輕罪罰金ノ起科中ニ入組
マセス九十錢以下トシ少シク間ヲ置テ如何
ト纂集長發言セリ
一 右發言有ルニヨリ罰金ヲ科セラル、者無力

前説ヲ為ス人々又謂フ若シ罰金ヲ出ス能ハ
サル者実決ノ刑ニ換フル時ハ數千圓ノ罰金
ヲ科セラル、者金四ヲ出サス僅カノ実決ニ
テ濟ム姿トナリ政府人ヲ罰スル本意ニ非ス
依テ罰金ハ他ノ刑ニ決シテ換フヘカラス子
孫ニ對シ追徴スルヲ可トスト○他ノ刑ニ換
ト謂フ後説ヲ為ス人々ハ罰金ヲ科セラレシ
者他ニ換フヘキ刑ナケレハ直チニ放免スル
乎又ハ子孫ニ對シ追徴スルカ此ニ様ノ外処
分ノ道アラサル可シ佛國ニ於テハ子孫ニ對
シ追徴スル法アリト虽凡此法ニ依ル時ハ眾
子孫ニ及フ姿ト成リ他ノ実決ノ刑犯人一身
ニ止ルモノト權衡其當ヲ得スサリトテ直チ

剝奪年限

ニ放免ス可キ者ニモ非ス依テ他ノ刑ニ換フ
ルヨリ外ニ処分ノ術ナシト謂ヘリ右ニ説ノ
中他ノ刑ニ換フルト謂フ説ニ同意スル者多
シ然ルニ此論ハ違警罪ノ罰金ノ事ヨリ起リ
シ故先ツ本議罰金ノ事ヲ定メ此換用ノ事ハ
輕罪ニ違警罪ノ刑期右ノ如ク議論ニ及ヒシカ後日
ニ至リ現ニ行フ所ノ違警罪ノ十日以下ノ拘留一圓
五十元以下ノ罰金ヲ科スルニ依リ輕罪ノ起科日
十一日以上一圓二十元以下ノ改メ

一公權剝奪ノ種類過日
ハ重罪ニハ總テ終身奪フヘキヤ又ハ年期ヲ
限ルヤ又ハ全部幾部ト區別ヲ立テ剝奪スル

前説ヲ為ス人々又謂フ若シ罰金ヲ出ス能ハ
サル者実決ノ刑ニ換フル時ハ數千圓ノ罰金
ヲ科セラル、者金四ヲ出サス僅カノ実決ニ
テ濟ム姿トナリ政府人ヲ罰スル本意ニ非ス
依テ罰金ハ他ノ刑ニ決シテ換フヘカラス子
孫ニ對シ追徴スルヲ可トスト○他ノ刑ニ換
ト謂フ後説ヲ為ス人々ハ罰金ヲ科セラレシ
者他ニ換フヘキ刑ナケレハ直チニ放免スル
乎又ハ子孫ニ對シ追徴スルカ此ニ様ノ外処
分ノ道アラサル可シ佛國ニ於テハ子孫ニ對
シ追徴スル法アリト虽凡此法ニ依ル時ハ罪
子孫ニ及フ姿ト成リ他ノ実決ノ刑犯人一身
ニ止ルモノト權衡其當ヲ得スサリトテ直チ

剥奪年限

ニ放免ス可キ者ニモ非ス依テ他ノ刑ニ換フ
ルヨリ外ニ処分ノ術ナシト謂ヘリ右ニ説ノ
中他ノ刑ニ換フルト謂フ説ニ同意スル者多
シ然ルニ此論ハ違警罪ノ罰金ノ事ヨリ起リ
シ故先ツ本議罰金ノ事ヲ定メ此換用ノ事ハ
本條ニ付テ再議セント暫止メタリ
一 右違警罪ノ罰金多説ニ循ヒ九十錢以下ト定
メタリ
一 昨日禁錮ハ一日ヲ起科ト定メシカ再議ノ上
懲役ト同シク八日ヨリ起スト改定セリ
一 公権剥奪ノ種類過日略ホ定タリ此附加ノ刑
ハ重罪ニハ總テ終身奪フヘキヤ又ハ年期ヲ
限ルヤ又ハ全部幾部ト區別ヲ立テ剥奪スル

明治二十五年
一月二十日

ヤト纂集長癸言セリ

一 公権剥奪中學校ノ教師トナルノ權ヲ奪フト
奪ハサルトノ論ニ附キ本十月四日ノ如ク
種々異論ヲ生セシカ本日終ニ決セス

同廿日ヨリ廿二日迄休

同廿三日

一 前日ノ続キ公権ノ種類年限ヲ定メテ剥奪ス
ル時ハ教師トナルノ禁ヲ奪フ共差支ナシト
虽氏若シ終身本條ニ掲クル所ノ者ヲ總テ剥
奪スルト定ムル時ハ教師トナルノ禁ハ除ク
方宜シカラント謂フ説ヲ為ス人多シ依テ又
剥奪ノ方法ニ論シ及ヘリ

一 年限ヲ定メテ剥奪スル時ハ有期ノ刑ナレハ

刑後僅カノ時間奪フニ当ルサスレハ剥奪ノ
刑ヲ置クノ効ナカル可シ故ニ重罪ハ終身總
テ剥奪スルヲ宜シト謂フ人アリ又例ハ國
事犯ナレハ公事ニ管スルノ權ヲ奪ヒ自
己身分ノ私權ニ管スル後見人トナルノ權等
ハ剥奪セサル様ニ種類ト年期ヲ限リ剥奪ス
ルヲ宜シト謂フ説アリ

一 又教師トナルノ權ヲ禁スルト謂フ説ヲナス
人ハ一旦重罪ニ処セラレシ者ヲシテ人ヲ教
育スルノ權ヲ有セシムルハ道理ニ於テ不當
ナリ故ニ刑餘ノ人ハ決シテ教師ト為スヘカ
ラスト謂ヒ又禁セヌト謂フ説ヲ為ス人ハ小
學ニ於テ子弟ヲ教フルハ工匠ノ手業ヲ教フ

ルニ異ナラス特ニ字ヲ學ヒ事ヲ習フノ必
スシモ猶身ノ學ニ管セス刑餘ノ人ト虽凡小
學ヲ開テ糊口ノ資トスル者必ス少ナカラス
今之ヲ禁スレハ忽チ生活ノ道ヲ失フニ至ラ
ン且賊盜等ノ眾ヲ犯セシ者教師ト爲ント欲
スト雖凡他人決シテ其教育ヲ受クル者ナカ
ル可シ如此ナレハ之ヲ禁セス凡自然教師ト
爲ルヲ能ハサルナリ故ニ此禁ヲ置カサル方
ヲ宜シト謂ヘリ

一 公權剝奪ノ刑各國刑法ノ比較大抵左ノ如シ

佛國

重罪 終身總テ剝奪ス

輕罪 種類ヲ撰ヒ五年ヨリ十年迄禁ス

白耳義國

重罪 死刑徒刑ハ終身剝奪ス囚獄徒場内駈
役刑ハ終身若クハ廿年又ハ十年剝奪
ス

埃及國

重罪部中ノ諸般ノ位級ヲ得云々ノ刑ハ(期限
ヲ定メ剝奪スルヲ云)トアリ同部中ノ公權ハ
(無期有期徒刑云々ハ当然其公權ヲ剝奪スヘ
シトアリ)

輕罪部中ノ官職ノ罷黜ハ三月ヨリ六年迄奪
フトアリ

一 前文ノ通反覆論シ來リシカ終ニ種類ヲ撰ハ
ス本條掲クル所ノ公權ヲ皆剝奪スルニ畧定

監視

セリ 然ルニ終身奪フヤ否ノ事ニ付復権ノ
 法ヲ設クレハ終身剥奪トシテ宜シケレ共若
 シ復権ノ法ヲ設ケスシテ一概ニ終身剥奪ス
 ルハ苛酷ナリト謂フ議ニ移レリ
 一 衆議終ニ復権ノ法ヲ設ケ終身奪フニ同意
 セリ依テ各校ノ教師トナルヲ禁スルノ條ハ
 多説ニ循テ止テ除カス
 一 然ルニ輕罪ハ各條ニ記載シテ年限ト種類ヲ
 定メ剥奪スルノ議ハ各負異議ナシ
 本日草案十七八ノ二條成ル
 同廿四日 平賀五等判事欠席
 一 昨日居止ノ監察ノ方法ニ就キ稍々論議起リ
 シカ未タ決セサリシ右居止ノ監察ノ法ハ去

方治議

月卅日并ニ本月四日ノ議ノ通犯人住所ノ地
 ヲ移スニ及ハサル事ト居止ノ監察ト文字ヲ
 定メル事ハ定マリシカ其方法ニ至リ左ノ三
 件ヲ監察ノ目的ト為サント謂フ議起リタリ
 一 旅行セント欲スル時ハ其行く所ヲ申し出
 警察官吏ノ許可ヲ得ル事
 一 此監察ヲ受クル者ハ政府ヨリ鑑札ヲ渡シ
 置キ一季毎ニ警察官吏ノ前ニ出テ檢印ヲ
 受ル事
 一 右三件ノ目的ニ就キ初ノ二件ノミニテハ格
 別監察ノカウ厚カラス依テ此法ヲ設クル上
 ハ第三件ノ鑑札ヲ渡シ置ク法ヲ立サルハカ
 ラス然リ而テ旅行スル時ハ本人旅行先ノ地

監視

セリ 然ルニ終身奪フヤ否ノ事ニ付復権ノ
 法ヲ設クレハ終身剥奪トシテ宜シケレ共若
 シ復権ノ法ヲ設ケスシテ一概ニ終身剥奪ス
 ルハ苛酷ナリト謂フ議ニ移レリ
 一 衆議終ニ復権ノ法ヲ設ケ終身奪フニ同意
 セリ依テ各校ノ教師トナルヲ禁スルノ條ハ
 多説ニ循て之ヲ除公ス
 一 然ルニ輕罪ハ各條ニ記載シテ年限ト種類ヲ
 定メ剥奪スルノ議ハ各負異議ナシ
 本日草案十七八ノ二條成ル
 同廿四日 平賀五等判事欠席
 一 昨日居止ノ監察ノ方法ニ就キ稍々論議起リ
 シカ未タ決セサリシ右居止ノ監察ノ法去

方議

月卅日并ニ本月四日ノ議ノ通犯人住所ノ地
 ヲ移スニ及ハサル事ト居止ノ監察ト文字ヲ
 定メル事ハ定マリシカ其方法ニ至リ左ノ三
 件ヲ監察ノ目的ト為サント謂フ議起リタリ
 一 監察ヲ受ケタル者住居ヲ移サント欲スル
 時ハ警察官吏ノ許可ヲ得ル事
 警察官吏ノ許可ヲ得ル事
 一 撤去サレシハ移スハ其法ニ依リて申出
 受ル事

一 右三件ノ目的ニ就キ初ノ二件ノミニテハ格
 別監察ノ力ヲ厚カラス依テ此法ヲ設クル上
 ハ第三件ノ鑑札ヲ渡シ置ク法ヲ立サルヘカ
 ラス然リ而テ旅行スル時ハ本人旅行先ノ地

同誌

ヲ申シ出タル時警察官吏ヨリ前以テ其行ク
ルノ警察官吏ニ通シ置檢印ヲ受クル期來レ
ハ必ス右旅行先キニ於テ其地ノ官吏ノ檢印
ヲ受クルトニ定メ置ケハ本人生業ノ為メニ
モ敢テ妨ケトナラス且監察ノ取締リニ於テ
モ都合厚シカルヘシ又此旅行ノ事ニ於テハ
旅行ノ向所ト往返日限トヲ嚴ニ定メサルヘ
カラス此諸件ノ方洽備ハル時ハ取締リ上ニ
於テ其便益極メテ多カラント謂フ説アリ
一 右旅行先キハ前以テ通シ置ク説アルニヨリ
鶴田四等出仕云フ旅行スル時ハ旅行免狀ヲ
与ヘ若シ途中ニ於テ疾病事アリ淹滞スル時
ハ其地ノ警察官吏ニ告ケ其免狀ニ記シ其事

ヲ証スル手数ヲナシ趣ク所ニ至レハ其地ノ
官吏ニ免狀ヲ出シ檢印ヲ受ル様ニスレハ別
段住所ノ官吏ヨリ趣ク所ノ官吏ニ通知スル
等ノ手数ヲ省キ且兼テ渡シ置ク所ノ鑑札ヲ
必ス持參スルニモ及ハサル可シト謂ヘリ
一 旅行免狀モ給シ又前以テ趣ク所ノ官吏ニ通
知シ置ク洽モ設置度クト謂フ説モアリ
一 又此事ハ實際上ニ就キ此種々ノ手数ヲナス
事甚タ行ハレ難シト謂フ説モアリ
一 終ニ旅行ヲ許スト許サヌトノ議論ニ軒シ未
レリ然ルニ如何程手数係ルハ旅行ハ許サ、
ル可カラス也ヲ許ス時ハ本人ニ於テハ便利
ヲ得ルト固ヨリ多ク又政府ニ於テモ本人ノ

監

一 前日居止ノ監察ノ方法畧定シタルニ依リ草
 同廿八日 平賀五等列侍欠席
 同廿五六七日休
 同日午後本務ノ繁多ナルニヨリ休
 一 右ノ決議ニ依リ草案ニハ旅行免狀ヲ本人ニ
 持セ遣スノミトシ他日免狀ノ外趣ク所ノ官
 吏ニ前以テ通シ置カサレハ差支アル場合出
 来スル時ハ其節加入セント決定セリ
 ハント衆議一決セリ

限年視

按文句ヲ作スニ係リシカ年限ハ如何スレハ
 宜シキヤト謂フ議起リタリシカ重罪ハ刑期
 ノ終リシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ
 多カラサル時間其居止ヲ監察シ輕罪ハ一年
 ヲリ五年ニ至ル時間監察ニ附スルト謂フ議
 ニ異議ヲ生スル者ナシ然ルニ重罪ハ罪ノ種
 類ヲ撰ハス必ス監察ノ刑ヲ附加シ輕罪ノ監
 察刑ノ加不加ハ本條ニ夫々記載スル事ト決
 セリ

限罪捐棄

一 監察ハ刑期ノ終リシ日又ハ小^{カラス}赦ヲ受テタル
 日又ハ期滿特免ノ時ヨリ年限ヲ定メテ附加
 スト云フ條ヲ置ク可シトノ議起レリ此議ニ
 就キ期滿特免ノ法ヲ置ク可キヤ否ノ事ニ論

及セリ

一 福原七等出仕ハ期滿特免ノ法ヲ設クルハ宜シカラスト爰言セリ其論ニ曰ク一旦眾ヲ犯シタル者ハタトハ歳月ヲ経ルトモ之レヲ免スルノ理アルナシ各國刑法期滿特免ノ法アレ共此法ハ道理ニ適ハサル者ト思考セリ如何トナレハ譬ハハ爰ニ人ヲ殺ス者アラシニ期滿特免ノ法ニ依リ歲月ヲ経ルニ循々無罪トナリタリ然ルニ其被殺人ノ子孫タル者之ヲ安シス可キ道理アルヤ決シテ安シスル者ニアラサルハシ故ニ此法ハ置カサルヲ可トスト云ヒシカ此期滿特免ノ法ハ各國皆設立スル所ニシテ且本邦新律ニモ旧惡減免ノ法

アル上ハ彼是斟酌シ此法ヲ設クル方宜シカ
 一 右ノ如ク期滿特免ノ法ヲ設クル上ハ此法ニ依リ其罪ヲ免サレタル者監察ノ刑ハ附加スルヤ否ノ議ニ腹セリ
 歐洲各國監察ノ刑ヲ附加スルハ全ク取締ノ為メ附加スル所ノ者ニ例ハハ父母ノ其子ヲ戒シムルカ如シ其子ノ惡事ヲ為スニ当リ改テセントシテ得ス數時間ニシテ忽チ父母ノ傍ラニ來ランニ再ヒ意ヲ起シ改テセントスル情ハ決シテ起ラサル者ナリ然ルニ再ヒ右ノ惡事ハ為サシメサル様氣ヲ付ケ置ク事ハ自然父母ノ情ヨリ起ル者トス 歐洲各國期

刑法

満特免ニ依リ罪ヲ免サレタル者ニ監察ノ刑
 ヲ附加スルハ此意ニ出ル者トス
 右ノ議ニ依リ期滿特免ノ法ニ依リ刑ヲ免レ
 タル者ニモ監察ノ刑ハ附加スル事ニ決セリ
 一 右等ノ決議ニ依テ愈々草案文句ヲ作スニ係
 リシカ本務ノ繁多ナルニ依リ午後休
 同廿九日ヨリ十一月三日迄休
 十一月四日 卒賀五等判事福原七等出仕欠席
 一 居止監察ノ方法文句ハ一通リ出來セシカ刑
 法上ニ於テ監察ノ手順方法等細大餘サス記
 載スル事出未難キニヨリ其細目ニ至テハ他
 日監察規則ヲ創立シ夫ヲ以テ定ント決議シ
 タリ

没収品ノ種類

一 右居止監察ノ方法文句ヲ作ルニ就キ草案第
 十一條以下正刑罰金凡長期短期ノ間ノ接續
 詞ヲ以上以下ト改メタリ
 同五日六日休
 同七日 卒賀五等判事福原七等出仕欠席
 一 本日ハ第二章略ホ成ラントス没収品ノ種類
 并ニ其文句ヲ定ムルニ係レリ
 一 没収品ノ種類三種アリ
 第一 應禁物
 第二 犯罪ニ用フル物品
 第三 犯罪ヨリ生シタル物品
 一 右犯罪ヨリ生シタル物品ト謂フニ就キ種々
 議論ニ及ヒシカ犯罪ニヨリ生スル所ノ物品

同
 法
 省

例ハハ實金ヲ以テ正金ニ交換シタル時ハ其
交換シタル正金ト其正金ヲ以テ他品ヲ買得
シ利益ヲ得テ其品ヲ他ニ轉賣シタル時其得
タル所ノ利益ト混雜セサルトニ注意セサル
ヲ得サル様論シ及ハリ各國刑法實金ヲ以テ
交換シタル正金ト其正金ヲ以テ他品ヲ買得
シ利益ヲ得テ他ニ轉賣シ其得タル所ノ利益
トノ區別ナシ原來交換シタル正金ハ其本主
ニ返サ、ルヲ得サル所ノ者ニシテ初メヨリ
没収スヘキ物品ニ非ス但其本主知シサル節
止ムヲ得ス没収スル者ナレハ是非此二物ノ
區別ヲ立テ没収スルヤセサルヤノトニ定メ
サルヲ得ス右ノ議ニ依リ草案但タ其利益ヲ

得テ他ニ轉賣シタル時ノ其利益ノコト没収
シ其初メ交換シタル正金ノ没収ニハ本主知
レサル時初メテ及フトニ定メ犯案ヨリ生シ
タル物品トセス利益ト没収条ニ掲ケント決
定セリ

同八日ヨリ十七日迄休

同十八日 平賀五等判事 川野七等出仕欠席

一本日没収條漸ク成レリ

頃日本務益繁クナルニ依リ草案會議甚々延
引シタリ依テ名例ノ出來スル迄教師ノ講義
ヲ一ヶ月六會ト定メリ

同十九日 平賀五等判事 草野七等出仕欠席

刑 刑期并ニ刑期起算ノ日等ヲ程度ノ章ニ入レ

期起算議

然ル後于章ヲ改メント本日ハ刑期起算ノ餘
ヲ作ルニ係レリ

一 餘ニ議論ナシ

同 廿日 廿一日 休

同 廿二日 平賀五等判事闕席

一 刑期ヲ起算スルニ佛国刑法重罪ハ毎ツモ裁
判確定ノ日ヨリ初メ自巳ヨリ控訴上告シテ
テモ其控訴上告ノ勝ヲ負ケニ論ナク裁
裁判言渡シノ日ヨリ何日ヲ待チ裁判確定
師ボナリ刑名ヲ起算スルハ道ニ三條是ナリ教
リハ

輕罪ハ拘留サレ居ル者ニ刑名ヲ言渡シタレ
ハ自今ヨリ控訴上告シテ負ケトナリタル時
ヲ除クノ外初メノ言渡シテ以テ刑期起算ノ

初日トナシ其輕罪ニシテ責附サレ居ル者ハ
重罪ノ通り毎ツモ裁判確定ノ日ヲ以テ初日
ト為ストアルカ草案輕罪重罪ニ論ナク仏國
輕罪處分ノ通り自巳ヨリ控訴上告シテ負ケ
トナル時ヲ除クノ外總テ原裁判言渡ノ日ヲ
以テ刑期起算ノ初日ト為サント決シタリシ
カ初メヨリ責附サレ居ル者ニ刑名ヲ言渡シ
タル時 日間ノ控訴上告時間ハ拘留スヘキ
ヤ又ハ 日間モ責附シ置クヘキヤノ事ニ就
キ種々議論起リシカ原裁判實決ノ言渡シニ
係レハ 日間ノ控訴上告期限ハ拘留スルヲ
本則ト定メ若シ保証人等有之都合ニ依リ裁
判官ノ見込ヲ以テ責附ヲ聽スフモ之アルヘ

同
法
書

滞獄罪内

シ其時ハ裁判確定ノ日ヲ以テ刑ノ初日トナ
 ス事ニセント決定セリ
 一本日州按第廿一二條成ル
 同廿三日休
 同廿四日 平賀五等判事藤田六等出仕欠席
 一第ニ章程度ノ部ニ入ル可キ者大概出來セシ
 カ○祭日行刑ヲ留ムル丁○滞獄ノ日數ヲ刑
 期中ニ算入スル丁○外國ニ於テ犯シタル罪
 ノ処分ノ丁等ヲ餘セリ次ヲ追ヒ編入ニ係レ
 リ
 一先此刑期ヲ算スルノ次ニハ獨シ刑法六十條
 ニアル所ノ滞獄罪因減刑例ヲ置カント決議
 ニ及ハリ

減刑議

一右滞獄ノ日數ヲ刑期中ニ算入スルニ必ス滞
 獄中ノ日數ハ引キ公ル可ント刑法ニ立テ置
 クヘキヤ又ハ裁判官ノ見込ヲ以テ全部或ハ
 一部等ヲ引公ラシムル方ニ定メ置テ宜シキ
 ヤノ議起レリ
 一滞獄ノ日數ハ必ス刑期中ニ算入スヘシト刑
 法ニ定ムル時ハ其日數本罪ニ過ル節ハ犯人
 ハ政府ヨリ償ヒヲ為サネハナラヌ様ノ道理
 ニ至ル可シ又裁判官ノ見込ヲ以テ何部カラ
 引公ラシムルト定ムル時ハ若シ裁判官ニテ
 差引ヲ与ヘサレハ空ニク滞獄サスルノ弊ア
 リ然ルニ必ス引公ルヘシト法律ニ出スヨリ
 獨逸刑法六十條ニ隨ヒ裁判官ノ見込ヲ以テ

同法書

禁刑日事

全部又ハ一部ヲ刑期中ニ算入スル法ニ為シ
 置クヲ可トスル人多シ但其日數ヲ算入スル
 ニヨリ重罪ノ者其年限ヲ引去リ四年以下ニ
 降ル氏元ト重罪ニ当ル罪ナレハ其刑名ハ改
 メサルトト為シ裁判官ノ見込ヲ以テ全部若
 クハ一部ヲ算入スルトニ衆議一決セリ
 一 滞獄減刑ノ次ニ禁刑ノ日ノ事ヲ置ク異議ス
 ル者ナシ
 草案○大祀ハ元始祭神嘗祭ノ類○令節ハ天
 長節新年ノ類○國忌ハ皇靈御祭日等トス
 一 外國ニ於テ犯シタル罪ノ事ト外國人内國ニ
 於テ犯シタル事等ヲ此章ニ編入セント一時
 ハ決シタレ共右ノ事ハ一編ノ終リニ廻シ徒

雇工賃錢ノ議

刑懲役ノ雇工賃錢ノ事ヲ此章ノ終リニ置キ
 然ル後章ヲ改メント衆議一決セリ
 一 本日草案廿四五條成ル
 同 廿五日 平賀五等判事欠席
 一 昨日ノ続キ雇工賃錢ノ事ハ總テ獄則ニ讓リ
 但雇工賃錢ノ幾分ハ給スト謂フトノミテ刑
 法ニ出シ置カント謂フ説ヲ為ス人アリ
 一 又重罪ハ幾分輕罪ハ幾分ヲ給スト刑法ニ載
 セ置カント謂フ説ヲナス人アリ
 一 獄則ニ讓ラント謂フ説ヲ為ス人々ハ犯人ニ
 給スル部分ノ割出シハ獄則中ノ規定ヨリ來
 ル者ナレハ獄則ニ讓ルヲ宜シト謂ヘリ
 一 又重罪輕罪ニヨリ給シ方ヲ分割シテ刑法ニ

奉ケ置カント謂フ説ヲ為ス人々ハ獄則ハ一
般ノ罪囚ニ係ル規則故輕重罪ノ區別更ニナ
シ原來輕重罪ノ別ル、所ハ徒ニ刑期ノ長短
附加刑ノ有無ノミニ非ス其罪囚ヲ遇スル事
ニ於テモ判然輕重罪ノ別チテ立テ不ハナラ
又者ナリ故ニ刑法ニ於テモ重罪ニハ幾分ヲ
給シ輕罪ニハ幾分ヲ給スルト記載シ置クヲ
宜シト謂ヘリ

一 右兩説ノ内草案ニハ但雇工賃錢ハ給スルト
謂フ綱領ノミテ奉ケ他ハ監獄則ニ讓ラント
謂フ事ニ衆議一決セリ

同廿六日休

同廿七日 平賀五等判事闕席

犯

一 若役人ニ雇工賃錢ヲ給スルニ食費ヲ除キ餘
リ幾分ヲ給スルノ本邦ノ法ニテ昨日草案ヲ
起スニ付テモ食費ヲ引クヲ監獄則ニ載ス
ル積リニ定メ置シカ禁錮禁獄等ニ処セラ
ル者ハ假令罪ノ種類ハ違フモ役ニ附セス食
費ハ官ヨリ給与スル者ナリ獨リ若役ノ者ニ
至テ食費ヲ除クト云フハ不權衡ニ似タリ右
若役ノ者ハ雇工錢ヲ給スルハ役ニ附スルニ
依リ賞譽ノ意ニ出ツル者トシ他日監獄則改
正ニ臨ミ禁獄禁錮等ト其權衡ヲ合スル為メ
食費ヲ除ク等ノ語ハ加ヘサル様致シタシト
纂集長語シリ異議スル者ナシ

犯由牌ヲ大ル事ヲ此章ニ入ルヘキヤ如何ト

纂集長發言セリ各負此章ニ入ル、ヲ可ト謂
ハリ

右ニ就キ犯由牌ハ何罪ト立ル場所ハ何ノ地
ニ於テスルヤト又發言セリ

一 罪ハ重罪以上〇場所ハ犯罪ノ地ノ通衢〇裁
判シタル所ノ地ノ通衢〇犯人住所ノ地ノ通
衢ト定メント各員同意答言セリ依テ右ノ通
り草案ニ記載ス

犯人ノ住所トハ一家奉テ住スル所ヲ謂フ
一人一箇他ニ寄寓スル時等ハ本籍一家共
ニ居ル所ニ犯由牌ヲ立ツ

犯罪ノ場所數ヶ処ニ係ル時ハ其重キ方ノ
地若シ又數ヶ処等シキ時ハ繁華ナル土地

トス

右ノ意ヲ以テ他日刑訟辨明ニ供セントス

一 前十月七日死刑ヲ論定スル節君父ニ對スル

逆罪ハ顯戮ニ処スルカ又ハ死後ノ処分ノ法

式ヲ違へルカ後日ヲ待チ論定セント暫ク置

キタリシカ今此章ヲ終ルニ臨ミ前事ヲ此章

ニ置クトニ決シ此議ヲ初メシカ顯戮ニ処ス

ルニ同意スル人多シ依テ暫ク顯戮ト定メタ

リ

然ルニ君ト指入人々ハ皇族以上父ト指入人

々ハ父母高曾祖母ト本系ノ人ト定メント

決議セリ

同廿八日 本務ノ繁ヲナルニ依リ休

同廿九日 平賀五等判事欠席

一前日尊族ノ親高曾祖父母父母ト本系ニ係ル者ニ對シタル死罪ハ顯戮ニ処セント略定セシカ婦ノ舅姑ニ對シタル罪ハ如何スルト議シ及ヘリ

一福原七等出仕ハ婦タル者ハ夫ノ家ヲ嗣ク者他家ノ養父母ニ對シタル者ト同シク眞生父母ノ權衡ニ依リ顯戮ニ処セント謂ヘリ

一名村七等出仕ハ夫ノ父母ニ對シタル時眞生父母ト同シク論スル上ハ妻ノ父母ニ對シテモ其權衡ニ依リ処分ス若シ妻ノ父母ニ對シタル罪ヲ凡人ト同シク処分スル時ハ夫ノ父母ニ對シテ犯シタル時モ亦凡人ト同シク処

分セサルヲ得スト謂ヘリ

一鶴田四等出仕ハ養子ハ一種特別ノ者ナレハ血統ノ者同様ニ見做シ人ノ妻タル者ハ夫ノ死後夫ノ家ヲ嗣ク日ヨリ養子同様ニ見做シテハ如何ト謂ヘリ

一右三説ノ内後ノ養子ハ特別ニ血統同様ニ見做シ妻ノ夫ノ家ヲ嗣ク上ハ養子同様ニ為サント去フ説ニ同意スル者多シ依テ本系ノ尊族ノ外ニ右二人ノ犯シタル時顯戮ニ処スル事ニ決シタリ

一本日第二章終ル

同三十日ヨリ十二月二日迄休

十二月三日 平賀五等判事欠席

一 過日養子ノ養父母ニ對スル眾并ニ家ヲ嗣ク
妻ノ舅姑ニ對スル眾ハ眞生父母ト同シク論
セント定メシカ繼父母ハ如何予ハ養父母ト
同シク論セサルヲ得ス考ヘルト名村七等出
仕発言セリ然ルニ人ノ妻トナル者舅姑ニ對
シタル眾モ未タ其家ヲ嗣カサレハ眞生父母
ト同シク論セス養父母ニ至テハ本邦昔レヨ
リノ慣習ニテ一種特別ニ尊ミ眞生父母ト同
シク論スルナレ共繼父母ニ至テハ眞生父母
ト同シク論スヘカラス且養父母ト養子トナ
ル者ノ契約ハ親子トナルノ契約ナレ氏繼父
母ニ至テハ子トナリ親トナルノ契約ニ非ス
親同志ノ契約ヨリ生シ未テ子トナル者ニ付

繼父母ハ眞生父母ト同シク論ス可カラスト
鶴田四等出仕并ニ福原七等出ハ名村七等出
仕ノ説ヲ駁シタリ然ルニ名村七等出仕ハ繼
父母ナル者ハ恩養ノ上ヨリ論スレハ養父母
ヨリ原ク又契約上ヨリ論シテモ親同志ノ契
約ハ其契約ヲ結フ時既ニ已ニ其子タルノ契
約ヲ含ンタル者ニテ子タル者ハ別段更メテ
契約ヲ結ハストモ親同志ノ結フ契約ヲ默認
シタル者トス故ニ養父母ヲ眞生父母ト同シ
ク論スル上ハ是非共繼父母モ眞生父母ト同
シク論セサルヲ得スト仍ホ前説ヲ主張セリ
一 鶴田四等出仕又謂フ養子ヲ為スハ元來其家
ヲ絶サヌメノ道ヨリ未ル者ナリ故ニ眞生

同
法
書

父母ト同シク論ス人ノ妻タル者モ夫ノ家ヲ
嗣ク上ハ真生父母ト同シク論シ嫡母ニ至テ
モ妾腹ノ子其家ヲ嗣ク上ハ真生母ト同シク
論スル者トス獨リ繼父母ニ至テハ家ヲ絶サ
又為メト謂フ道理ヨリ來ル者ニ非レハ真生
父母同様ニ論セス凡宜シト謂ヘリ
同日 孕賀五等判事弘原六等出仕横山八等
此仕濱口十二事弘原六等出仕欠席
一 程度ノ条件ハ既ニ終レリ依テ章ヲ改テ刑ノ
運用ニ及ハント議ヲ起セリ
一 日本人外國ニ於テ罪ヲ犯スト又外國人内
國ニ在テ罪ヲ犯ス時ノ知分并ニ軍人ノ常律
ヲ以テ知断セサルト又犯罪依新頒律等ノ事
ヲ第三章ノ初メニ置カント云フ詭アリ然シ

氏是等ノ事ハ總テ總論ノ章ニ讓リ名例ノ最
末ニ置クヘキモノニシテ此章ニ出スヘカラ
スト謂フ論ニ決シ依テ佛國刑法第二條第三
條ニ在ル所ノ罪ヲ犯サントスルノ所業ヲ三
章ノ初メニ置クトニ決定セリ
一 第三章ノ標目ハ何ト定ムルヤノ議起レリ新
律ノ如ク漢語ヲ用ヒシカ又ハ假名ヲ交ヘテ
用ヒシカノ論アリ漢語ヲ用フルト定メテモ
時アリテ漢語ニテ尽ス能ハサルトアラシク
ニ此章ノ題目モ漢語ナラハ犯罪未遂ト為サ
ン又假名ヲ交フレハ罪ヲ犯サントシテ未タ
遂ケサル所業トナサン右兩様ノ内ニテ後章
題目ノ模様ニヨリ何レカ一方ニ決セント衆

同法書

議一定セリ

一 犯眾未遂即チ「タシ」タチ「フ」ノ性質ニ付キ各
 負議論区々ニアリ「タシ」タチ「フ」ハ既ニ手ヲ
 下シテ未タ遂ケサル者ナリ其豫備ノミニテ
 ハ「タシ」タチ「フ」ニ入レスト云フ説アリ七名村
 出既ニ眾ヲ犯サントスルノ確証アル時ハ豫
 備ノミニテモ「タシ」タチ「フ」ニ入ルヘモト云
 フ説アリ福原七等出仕「タシ」タチ「フ」ハ成ル
 丈ケ現場手ヲ下シテ顯然タル証跡アルヲ以
 テ定メル方宜シカラレ但豫備ノミニテ「タシ」
 タチ「フ」トスルハ酷ニ過ルニ似タリ然レモ
 犯眾ノ豫備ノ明白ナルモノヲ無罪トスル説
 ニモナルマシ故ニ「タシ」タチ「フ」ニ入ラサル

前ノ豫備ヲ罰スル為メノ輕罪ヲ設置シテハ
 如何ト云説アリ

一 名村七等出仕又云フ然ラハ「タシ」タチ「フ」ノ
 取除ケノ條ヲ設クヘシ

一 鶴田四等出仕云フ其取除ケハ國事犯人命強
 竊盜オニ設ケテハ如何

一 名村七等出仕又云フ國事犯ハ取除ケニ入レ
 可然ト虽モ強竊盜ノ豫備走及フハ不都合ナ
 ラン國事犯ハ公益ヲ害スル「フ」極メテ大ナル
 故ニ豫備ト雖モ罰セサルヲ得ス他ノ罪ニ至
 テハ既ニ犯ス者ト「タシ」タチ「フ」ト豫備ト三
 等ノ刑アリテハ不体裁ナラヌヤ右ノ議論頗
 ル長シ終ニ豫備ヲ為ス者ハ別ニ別条ヲ獨載

同法書

レ譬ハハ謂レナク人家ニ入ルトカ又ハ兇器ヲ持シテ夜間往來スルトカ云フ豫備ノ所業ヲ罰スル條ヲ設ケント云フニ決セリ

同五日

一昨日ノ論ノ続キ犯眾未夕遂サル者ノ内既ニ公益ヲ害シタル假令ハ謀殺ナレハ既ニ傷ヲ成ス以上ハ既ニ遂ケタル者ニ同シク論スル氏未夕傷ヲ成スニ至ラサル内誤機スルカ又ハ意外ノ景況ニ依リ中止スル等未夕公益ノ害トナラサル者ハ輕眾追減シテハ如何ト纂集長卷言セリ

一右ノ論ニ附キ不同意ノ人ハナカリシカ何年ノ懲改追降シテ宜シキヤ衆議未夕公益ヲ害

スルニ至ラサル者ハ二年ヨリ五年迄ノ輕眾ニ止メ傷ヲ為ス以上ハ別條ヲ設ケテ其刑ヲ掲ケント答ヘリ

同六日休

同七日 卒賀五等判事藤田六等出仕欠席

一前日ノ論ノ続キ毒藥ヲ進メ其効ナキ時ハ如何ヲシタチノコトニ入ルヤ否名村七等出仕ハ勿ンタチノコトニ入ラス但其所業ヲ惡メハ他ノ律ニ依リ刑スルヲ宜シトス何トナレハ未夕公益ノ害トナラサレハナリ又銃炮ヲ以テ人ヲ殺サントスルニ過テ彈丸ヲ込メサレハ勿ンタチノコトニハ入ラス右ニ及シテ若シ拙手ニシテ爪樹ヲ折タル時ハ人ニ對シ其害ハ

同法書

ナケレ共已ニ公益ハ害シ居レハマシタチ
コトニ入ルト答言セリ

一 鶴田四等出仕名村氏ノ論ハ但被告人ノ為メ
已レテ防ク為メニ説ヲ為ス者ニテ法律ヲ起
ス者ハ中ヲ酌ニ案ヲ立テ子ハナラヌ依テ一
概道理ノミニ泥ムハカラスト謂ヘリ

一 福原七等出仕謂ノ前議名村氏ハ毒藥ヲ進メ
効ヲ奏ヤス又空炮ヲ放テ人ヲ傷セサレハマ
シタチコトニ入ルハカラス但其所業ヲ思メ
ハ別ニ夫ヲ罰スル刑ヲ設ケント謂ヘリ予思
フニヤハリ毒殺炮殺ノ如シタチコトニ入レ
テ可ナラン何トナレハ草案起ス所ノ如シタ
チコトハ佛國ノ法ト違ハ已ニ殺シタル者ト

同シク処分セス未タ公益ヲ害スルニ至ラサ
ル者ハ五年ヨリ二年迄モ刑ヲ降減シテ処分
スル様定メ置ケハナリト

一 鶴田四等出仕又謂フ重罪ノ如シタチコトハ
前日ノ論ノ通り未タ公益ヲ害スルニ至ラサ
ル者ハ五年ヨリ二年迄降減スル様定メタレ
氏犯罪ノ種類ニ依リ一概ニ二年迄降減スル
ヲ得サル者之アルヘシ依テ本條ニ此種ノ罪
ハ二年迄降減セサル様特別ニ記載シ置カ
ン

同 八日ヨリ十二日迄本務ノ繁多ナルニ依リ休
同 十三日 卒賀五等判事欠席

一 此迄ノ論ニ依テ草案ヲ起スニ就キ元ノ案ヲ

出マリ

一行テ公益ヲ害スルニ至ラサル者五年ヨリ二年迄ニ止ム此但シ豫備ノミニテハ此取除ケ

第一 行テ公益ヲ害スルニ至ラサル者ト

雖凡二年迄降減ノ出来サル種差ノ眾アルハレ夫等ハ本條ニ一々舉ル論ナリシカ其事ヲ名例ニ断リ置クヤ断リ置クニ及ハスヤ

第二 行テ公益ヲ害スル以上ハ本條ニ一

々舉ケ名例ニハ舉ケスニ置クヤ又ハ本條ニ一々舉ケス名例ノミニ此事ヲ断リ置クヤ

第三 行テ未タ公益ヲ害スルニ至ラサル

内本心ヨリ悔悟シテ中止スル者ハ無罪ニ置クヤ若シ既ニ公益ヲ害シタル上本心ヨリ悔悟シテ中止スレハ其害トナリタル事ノミニ就キ他ノ刑ニ擬シ科断スルヤ此事ハ名例ニ判然舉ケ置ケハ外ニ條ヲ設ケス凡宜シキヤ

答フ前案取除第一第二ノ事ハ本條ニモ一々出シ名例ニモ此事ヲ断リ置クヤ可トス

第三ノ取除ケ本心ヨリ中止シタル者ハ又シタチノコヲ以テ論セスト名例ニノミ舉ケ置ケハ宜シ何トナレハ本心ヨリ中止スル時ハ既ニ公益ノ害トハナレ共

罪ノ性質異ナルニヨリ他ノ刑ニ就テ罰
スルヲ得レハナリ其未タ公益ノ害ト
メラサル者ハ罪ノ論ス可キナシ

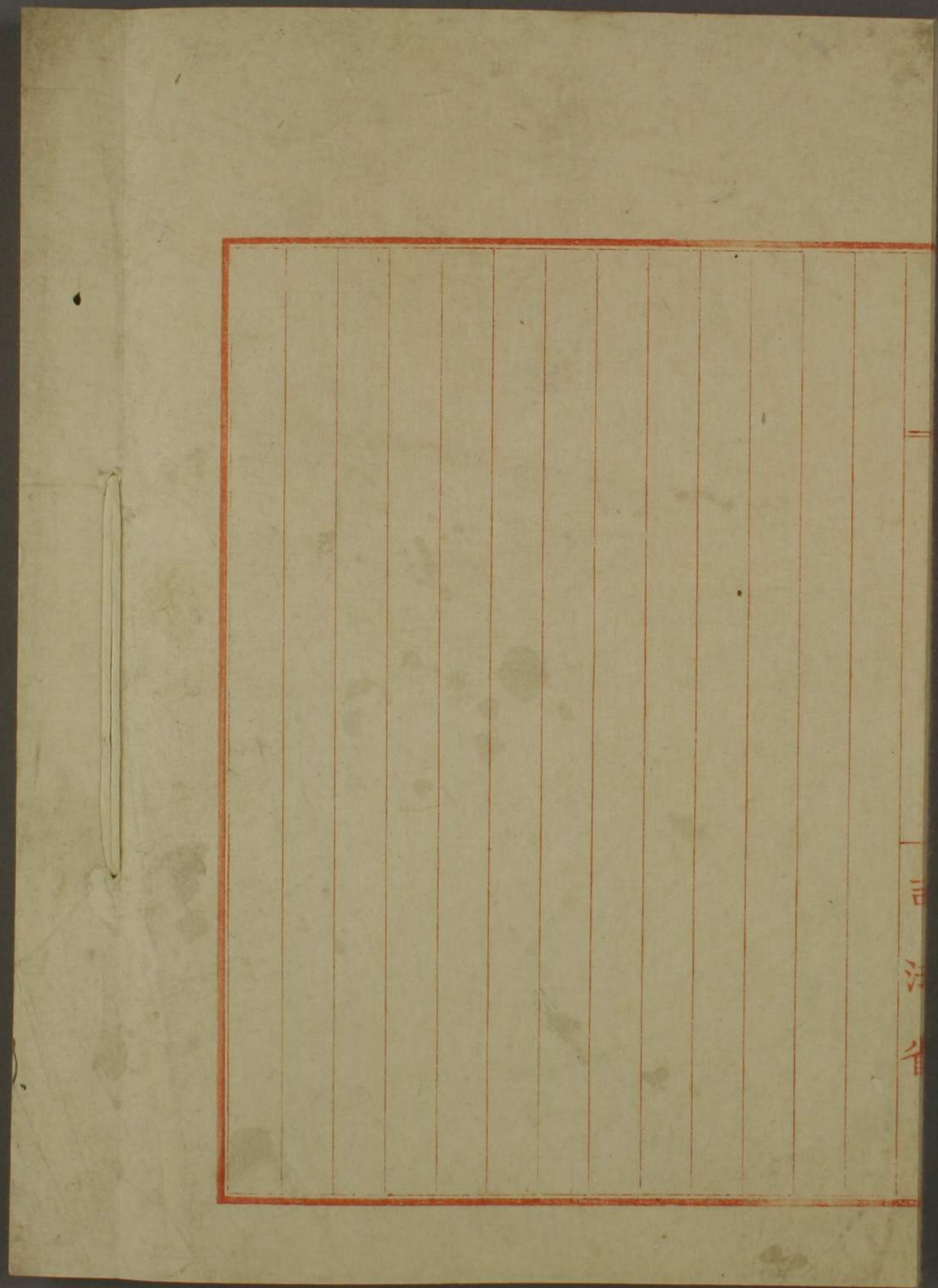
一 重罪ノタシタチノフラニ年迄降スルニ定ム
ルト實際上不権衡ノ事多ク出来セシ何トナ
レハ例ハ謀殺ヲ為サントシテ但衣服ノミ
ヲ毀損スルト髪方寸許ヲ抜クト其時ノ模様
ニ依リ衣服ヲ毀損シ又ハ手足ヲ殴打スルオ
假令傷ヲ為スニ至ラスハ髪ヲ抜クヨリ重キ
場合アラシ故ニ重罪ノタシタチノフラナレハ
佛刑法ノ如ク重罪ニ止メ置ケハ酌量減等ヲ
用ユルヲ得ル法モアレハ實際上ニ能ク注意
スルト輕罪迄降シ置クヨリ重罪ニ止メルヲ

宜シト思フト去フ説アリシカ然レハ髪ヲ抜
クヲニ於テモ一本ヨリ二本二本ヨリ三本ト
段々區域ヲ立サレハ實際ニ適シ難カラシ未
タ公益ヲ害セサル者ヲ既ニ五年ノ刑ニ処ス
ルナレハ随分寛比謂ヒ難シ且本律上髪方寸
ヲ抜クヨリ段々區域ヲ立テ擧クルヲハ恐ク
ハ出来サルヘシ故ニ身体髪膚ニ毀傷ヲ成サ
ル者ハ五年以下ノ刑ニ大別シ置テ傷ヲ成
ス以上ハ重罪トナシ本条ニ區域ヲ立テ置タ
レハ宜シカラシト謂フ説ニ從ヒ前數論ノ通
リ定メリ

一 重罪ノタシタチノ事ニ付キ五年ヨリニ
年ノ輕罪ニ降減スルヲニ過日論定シタリシ

カ原來重罪ヲ犯サント巧タル者故刃シタチ
一ノヲ以テ五年以下ニ降減スルトモ公権ノ
剝奪ト居止ノ監察ハ附ケ置子ハ不都合ナル
ハシ依テ此ニ附加ノ刑ヲ加フルヲ当然ナリ
ト論及センカ異論スル者ナキニ依リ此ニ刑
ハ附加スト決シタリシカ通常重罪犯ノ如ク
終身ニ及ハス五年迄ニ止ムト定メタリ
一輕罪ノ如クシテノ時公権剝奪居止ノ監
察ハ如何スルヤト謂フ議起リシカ輕罪ハ初
メヨリ此附加ノ刑ヲ加ヘル罪少ナキ者故刃
シタチ一ノニ至テハ附加ノ刑ノ事ハ止メテ
如何ト謂フ説モアリ又幾分カハ奪ハ子ハ不
都合ナルハシト謂フ説モアリ然ルニ草案名

例ニ於テハ此事ヲ舉ケスト決シタリ
一本日追上ニ誌スル手順ヲ以テ合員會議ノ上
草案ヲ起スニ係リシカ初メヨリ合員會議ニ
附スルハ議論ノ多クシテ無益ニ時日ヲ費
スニ当ル依テ明十四日ヨリ名村七等出仕福
原七等出仕ヲ以テ下調ヲナシ然ル上各員合議
ニ附セント議定セリ
一本日第三章二十八條九條出未セリ前議ニヨ
リ以下編集日誌下調差ニ合議決定ノ二本ト
ナル



言
法
省